

ひびき

女性会連盟ニュース

第23期主題

「共にいてくださる主を信じて」

～信仰と、希望と、愛～

主題聖句：それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である。コリントの信徒への手紙一 13章13節

発行：日本福音ルーテル教会女性会連盟

発行者：芳賀美江

各教区を訪問して

会長 芳賀美江

新しい年、2017年を迎えました。

昨年は熊本地震や集中豪雨、台風の影響など各地で被害を受けました。皆様のところでも様々な影響を受け辛い思いをされた方がおられると思います。それぞれの場所におられる方の上に神様の顧みがありますようにお祈りしております。

九州教区女性会のために募金をお願いしたところ沢山の皆様から献金をいただきました。考えてもいなかった多額の献金をいただき女性会連盟のつながりの強さに改めて気づかされ感動し感謝いたしました。

各教区の皆様とできるだけ顔を合わせてお会いする機会を持ちたいと思っておりました。

2015年10月（ちょうど熊本地震の半年前）には九州教区の修養会「ジェンダーと関係性の回復」に参加することができました。大勢の女性会の皆様と講演を聞きワークショップではいろいろな方とお話でき活気あふれる九州教区の様子を知ることができました。始まる前に朝早く仕事で何度か訪ねたことのある水前寺公園と熊本城に出かけました。地震の被害のため今は元の姿を見ることができず胸が痛みます。

2016年10月には北海道教区女性の会の交流会に出席しました。女性会連盟の歴史をDVDで辿り小泉小枝姉より会長をされていた頃のお話をお聞きしました。北海道は広く集まるのも時間がかかり大変だとのこと、それぞれの教会の方からお話をお聞きすることができ北海道教区の様子を知ることができました。

今年は3月に西教区、4月に東教区を訪問する予定です。

東海教区は所属する教区なので年2回の女性会の集いに参加しています。いつも70名から90名近くの参加者がいます。コンサートや講演を通して交わりの時を持っています。



23期も半ばを過ぎました。5月の合同役員会では来年6月の総・大会について話し合います。

女性と子どもの性と尊厳について

牧師 小勝奈保子

東教区社会部長として教区女性会の他に、東教区ディアコニア委員会やプロジェクト3.11にも携わっています。昨年12月、カトリック中央協議会から出版された『今こそ原発の廃止を』の記念講演会が、イグナチオ教会（四谷）で行われました。その配布物の中に『子どもと女性の権利擁護のためのデスク』、カトリック中央協議会社会福音化推進部の発行する資料入っていました。カトリック教会では子どもと女性に対する性暴力の防止に、専門部を設けて取り組んでいることを知り、資料には「性虐待被害者のための祈りと償いの日」四旬節第二金曜日を設けることと、「性虐待被害者のいやしのためのミサ」を行うことが書かれていました。その取り組みに驚きと開眼を覚えました。

ちょうど、昨年10月からDV講座で学んでいるところでした。地域の女性センター主催のDV講座に始まり、NPO レジリエンス「こころのcare講座」（全12回）、NPO 女性ネット Saya-Saya「DV 被害者支援養成講座」（全12回）、NPO ヒューマニティ「ストーカー対策研修会」（一日）、NPO レジリエンス「性暴力その後を生きる」等、受講しました。

DVと聞くと、殴られる、蹴られる、身体的暴力を連想します。しかし、他に、精神的暴力、経済的暴力、性的暴力があります。精神的暴力とは、「バカ」「女のくせに」「使えない」「頭がおかしい」「死ぬ」、言葉でののしり、おとしめたり、束縛、自由な行動や人間関係を認めない、強制管理することが上げられます。経済的暴力とは、生活費を渡さない、あるいは、取り上げ搾取する、また、管理チェックが執拗に厳しいなど。性的暴力とは、夫婦間であっても望んでいない性行為、無理強いや脅しはレイプ、犯罪です。女性は仕方なく、あるいは、打たれるのが嫌だから無抵抗なのかもしれません。

DVは、急性期、暴力の振るわれる状態から逃れれば、それで問題が解決するわけではありません。その後で、うつ病やPTSDを発症し、後遺症との戦い、5年、20年とトラウマに苦しみ、生きづらさを抱える人もいます。適切なケア、安心できる環境と居心地のよい人間関係の中で、人間力、生きる力を回復していきますが、そうした適切なケアを受けられないかで、後の人生は大きく左右されます。

DVやストーカーの被害者は身を隠さねばならず、転居によって住み慣れた環境、仕事、人間関係をあきらめ、手放さなければなりません。しかし、そもそも逃げなくてはならない社会とは何でしょうか。性暴力にしても被害者の方が沈黙し、恥に思い、自分を責め、苦しみに耐えねばならない社会とは何でしょうか。加害者への対策は後手で、野放しの状態です。被害者支援はもちろんのこと、法制度の整備、加害者への治療と回復プログラムも含めて、人々が関心を高めていく必要があるように思います。

性や家庭の問題を取り上げるのに、教会の中ではためらう部分もありますが、しかし、女性が味方にならずして誰が味方になり、この問題に対処すると言うのでしょうか。何もしないというのは、そういう社会を認めて、暴力を容認支持していることになります。DVに苦しむ女性たちの苦しみは、暴力、それ自体よりも、周囲に理解してもらえない、悩みを一人で抱える辛さです。DVの具体的な解決は専門機関に委ねるべきですが、寄り添う隣人の務めとして、DV、虐待、性暴力について、二次被害（無理解、心無い一言）を与えないためにも、女性会だけでなく教会全体で取り上げて学んでほしいテーマです。

最後に、DVを学ぶ中でとても大切な視点をもらいました。はじめて受けた講座で、講師の西山さつきさんからのお話でしたが、NPO レジリエンスの考え方だそうです。以下に引用記します。

私はなるべく「被害者」という言葉は使わず、「☆（ほし）」さんという言葉を使っています。☆さんとは、輝く星、輝きを持った人たちという意味で、性暴力、DV、いじめ、虐待、パワハラなど、どんな被害にあったかを問わず、傷つきを抱えながら一生懸命生き延びている人すべてを含んでいます。私自身がDVや性暴力の被害にあって感じたことは、私は確かに被害者にあっただけ、それがわたしを表すすべてではない、ということでした。被害者という言葉は被害にあったことだけに焦点を当てた表し方で、プラスの力を感じにくいもののように思います。暴力によって一時的に自分の力を発揮することが難しかったとしても、自分を輝かせていく力をすでに持っている人、その力を再発見して輝いて行く人、そういう意味をこめて、☆さんと呼んでいます。

性暴力の☆さんは、子ども、大人を問わずたくさんいます。性暴力という☆さんは女性だけと考えがちですが、男性、特に男の子たちの中にも被害にあっている人が少なくありません。男性でも女性でも性暴力の被害にあうということは忘れないでいただければと思います。

『性暴力その後を生きる』著：中島幸子（NPO 法人レジリエンス）より



被災地訪問のご案内

2016年6月合同役員会を石巻で行いました。その折、被災地を訪問いたしました。復興が進んでいて、たくさんの重機と嵩上げがありました。

その時の複雑な思いは今も続いております。

今回、一人でも多くの方に復興の過程、あるいは実際の状況を見ていただきたく計画いたしました。初期の頃とはだいぶ様子が変わり復興の様子もわかります。いまだにそのままというのもあります。悲しみがそのまま。忘れることなく時間が通り過ぎたような感じです。



私たちがかかわってきた方々にお目にかかり、同じ時間を共有して6年の月日を少しでも分かち合いたいと思います。そして、私たちがかかわったという実感を得ることが出来ればと思います。

仮説にお住いの皆さん方は2018年8月には復興住宅へ移られます。私たちは今後も祈り、支援をし、交流を続けていきたいと思っています。

今回労を取ってくださるのは松本・長野教会の野口牧師と千葉教会の小泉嗣牧師です。別紙募集要項、予定表をご覧ください。

皆様方、女性、男性関係なくご応募くださいますようお願いいたします。

23期女性会連盟のこれまでの活動・役員会報告

書記 杉本範子

○活動報告

23期連盟は、2015年6月、22期の役員の方々から引き継ぎ、あっという間に2年を経ようとしております。総主題の「ともにいてくださる主を信じ」を祈りつつ、「神様へつなぐ」、「連盟会員へつなぐ」、「世代間へつなぐ」、「社会へつなぐ」を意識し、会報の発行と以下の活動をしてまいりました。

神様へつなぐ 連盟が発行している『聖書研究』は、み言葉を通じた全国の女性たちのつながりを確認する一助になると思います。また、長年継続しておりますサバ神学院への献金はアジアに向けた神様がつなげてくださる私たちの信仰の証でもあります。

連盟会員へつなぐ 23期の初年度2015年11月、連盟の働きを担われる各教区の役員・協力委員の方々が一堂に会し、今後3年の活動についての話し合いが持たれ、23期の連盟は本格的に船出しました。連盟は、全国に散らばる女性会をつなぐ組織です(参照『ひびき43号』2-3ページに掲載の分布図)。

会報に設けられた「教区のページ」は、他教区の情報共有と連盟会員同士のつながりを確認するものです。これまでに九州(152号)・西(153号)が紹介され、今後、北海道(154号)・東海(155号)・東(156号)を予定しています。

2016年4月に熊本地震が起こり、被災された会員を覚えて87万円弱の献金が寄せられました。全国の会員同士の思いやりの心がつながれた結果でした(参照「会報154号」)。

世代間へつなぐ 連盟の長年の課題である信仰継承は、5月のこどもの日に、TNGの活動を覚えて全国の会員に献金を要請しました。この呼びかけの浸透が今後の課題です。

女性会の会員の中には信仰が世代間に繋がれている家族がおられます。その紹介を会報に順次掲載する予定です(参照「会報154号」)。

社会へつなぐ

2016年6月21-23日、野口勝彦師の引率の下、各教区会長と連盟役員は東日本大震災の被災地訪問をしました(参照「会報153号」)。2017年6月に被災地訪問を予定し、参加者を募集しています(参照「本誌3ページ」)。より多くの方々が被災地を覚えてくださることを望みます。

女性会員が参加している社会的働きの紹介を考えています(参照「会報154号」)。

女性や子供たちの様々な社会的問題につき、今後学びの機会を設けることを考えています。

○役員会報告・今後の予定

① 連盟総・大会

ア：総・大会は2018/6/7-8、名古屋にて開催の予定です。東海教区の姉妹たちが皆様をお迎えいたしたく、2017/7/1第1回現地実行委員会を予定しております。

イ：大会では、以下2テーマのもとに学びをともにいたしたく、参加者を募集しております。

A 福島の放射能、子供の居場所もしくは小児がんについての講演会形式

B 信仰継承についてのパネルディスカッション形式

※パネラーを募集しております。

※A/B講演会・パネルディスカッション後、それぞれ分科会の設定を予定。

ウ：総会議事内容に関し、役員会・合同役員会にて論議継続中。

② 2017/6/20-22 東日本大震災の被災地訪問→参加者募集。詳細は「本誌3ページ」参照。

③ 2017/5/11-12 第2回合同役員会開催→総・大会の議事内容、プログラムの計画等々についての話し合いが持たれます。

④ 「会報」・「ひびき」の発行により、連盟の活動を会員へお知らせする。

⑤ 連盟の今後の活動の再考及び提案。